

『講習の部』

講習会小委員会では、毎年ダム工学だけでなく様々な分野の講師をお招きして講演を実施しています。本年は1名の講師を御招きし、ダムコンクリート圧縮強度試験の合理化について講演していただきました。

『ダムコンクリート圧縮強度試験の合理化』

一般社団法人 ダム技術センター ダム技術研究所 所長 吉田 等 様

吉田 等講師からは、施工研究部会での検討内容をコンクリート標準示方書ダムコンクリート編への反映させることを目的とした活動内容の説明がありました。まず問題意識として、圧縮強度の頻度や方法は永年変更されていないが、骨材設備やコンクリート製造設備の計量精度や連続監視技術の導入等技術が進歩していること、打設現場においても面的、連続的な施工管理が導入されており、コンクリート硬化後の点の管理から、フレッシュコンクリートの連続管理へシフトしている状況を鑑み、現状に即した圧縮強度試験への転換を目指したことが紹介されました。具体的には過去のデータの整理により、示方書には「材齢 91 日における圧縮強度が十分に安定化した後は、フレッシュ性状が適切に管理されている状態では、早期材齢の圧縮強度試験の頻度を合理的に見直してもよい。」と反映されたことを紹介いただきました。また圧縮強度試験方法においても、従来のφ150 mmの供試体に対し、Φ125 mmの供試体の使用例が増えていること、遠隔臨場や録画による事後確認、公的試験機関での試験指定除外の提案等も紹介いただきました。

また働き方改革への対応、熟練労働者減少への対応、カーボンニュートラルへの対応など、ダムコンクリートにかかわる課題と、あそれを解決するための取り組み事例についても紹介いただきました。

今回の講師のお話を通して、ダムコンクリートの品質管理に関する最新の話を知る良い機会となったとともに、産官学が連携して合理的な管理へ取り組むことの重要性について学ぶよい機会となりました。このような機会をより多くの皆様に提供するためにも、産官学が参加するダム工学会の本会が、情報や意見交換の場として活用されるよう努めていくつもりです。



吉田講師による講義